

表-12

照度測定資料

(単位 $\times 10^3 lx$)

満潮時 水深	S49年日時	9月10日 14時	9月12日 14時	9月13日 14:40	10月8日 12時
	場所	屋嘉田 (晴)	屋嘉田 (快晴)	屋嘉田 (晴)	津堅 (晴)
0 m		88	95	78	84
1		52	75	52	70
2		39	50		62
3		30	40		50
4				38	41
5				26	37
6					31
7				20	
8					
9				10	

4 粗度組成

海水の流動とアジモ場形成の関係をみるため粒度組成を調べた。区分はリュウキュウスガモ、ベニアマモ、マツバウミジグサの3種類のモ場、及びモ場の形成されていない場所の4通りとした。分析方法は表面から10cmまでの層をとり、標準ふるいによりふるい分け、乾重比率を求めた。その結果を図-24に示した。

それによると、3種類のモ場の間には、粒径3.360~0.210mmの粒度については、ほぼ同様の上昇傾向を示し、その含有率はそれぞれA; 66.2% B; 67.9, C; 71.2%となり大差はないが、粒径0.210~0.053mm間の含有率はA>B>Cの順に小さくなっており、したがって3種類のモ場上の海水流動の強弱はベニアマモ帯>リュウキュウスガモ帯>マツバウミジグサの順に配列される。次にモ場の形成されていない場所については、3種類のモ

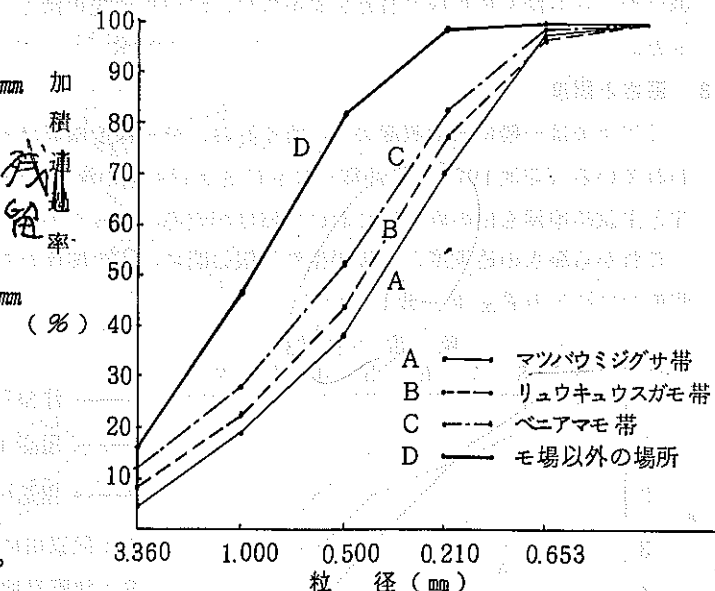


図-24

粒径加積曲線

場に比して曲線が粒径の粗い方に極端に偏っていること、また粒径0.210mm以下の含有率については、3種類のモ場のサンプル中、最も少なかったものが10.67% (平均22.6%)、他方モ場の形成されていない所では最大値4.9% (平均1.2%)を示し、両者の間には大きな差がある。以上